

「①教育実習事前指導登録ガイダンス」配布資料

1. はじめに

教育実習は、教職課程の「教育の基礎的理解に関する科目等」の 4 年次配当科目として位置づけられています。教育実習では、実際に中学校または高等学校に赴き、学校教育の現実に触れながらより実践的な知識・技能・態度を習得することになります。そのためには、事前に入念な準備が必要です。

2. 教職課程の学びと教育実習の関係について

○ 2 年次

教職課程の「教育の基礎的理解に関する科目等」「教科に関する専門的事項」の履修や、大学生活における様々な活動を通して、自分自身の適性や将来の進路について考える時期です。1 年次に「とりあえず」という気持ちで教職課程の履修を始めた方も、2 年次終了時を一つの区切りとして、以降の教職課程の履修を継続するかどうかを真剣に考えてください。



○ 3 年次

4 年次生で行う教育実習に向けて準備を行う学年です。具体的には、「教育実習事前指導」を含む教育実習条件科目(教育実習に行く前年度までに修得すべき科目)を確実に履修・修得することや、教育実習校(出身校等)への受入依頼などの手続きが必要となります。また、3 年次は、企業への就職を目指す人は就職活動準備や、教員・公務員などを目指す人は採用試験準備が始まる時期です。特に教員採用試験の実施が早期化しているため早めの準備が必要です。自分自身の将来を見据えた社会人としての行動を心がけてください。



○ 4 年次

教員採用試験の本番を迎える時期です。また、これまでの教職課程履修の“実践”の教育実習が始まり、秋学期には、「教職実践演習」の受講を通して教職課程の総まとめを行います。

3. 教育実習に関するQ&A

Q1.教育実習の時期は、いつごろですか？

A1.4 年次の 5 月～6 月にかけて実施されるのが一般的ですが、実習校の年間行事の都合等により、この期間以外に実施されることもあります。学生が教育実習期間の希望を出したり、変更を申し出たりすることは一切できません。

Q2.何週間の実習が必要ですか？

A2.中一種(中学校)免許取得希望者は 3 週間、高一種(高等学校)免許取得希望者は 2 週間の教育実習が必要です。

※ 中一種・高一種両免許取得希望者は、3 週間の実習が必要です。

※ 文学部初等教育学専修の方が、中一種・高一種免許のいずれかもしくは両免許を取得する場合は、2 週間の実習が必要です。ただし、小学校教諭一種免許の取得が前提となります。

Q3.中学校・高等学校の免許を両方取得する場合、中学校と高等学校の両方で実習をする必要がありますか？

(「理科」「数学」など複数教科の免許を取得するつもりです。実習は、両方の教科で行う必要がありますか？)

A3.実習は、中学校・高等学校のいずれかで行うことにより、両免許の取得が可能です。

(複数免許希望者はいずれか 1 つの教科で行うのが一般的です。実習教科は、実習校と相談の上、決定することになります。)

Q4.教育実習と企業等への就職活動の時期が重なります。両立は可能ですか？

A4.教育実習期間中は教育実習に専念してください。実習校は実習に専念すること・卒業後の進路に教職を希望していることを条件に皆さんの実習を受け入れています。教育実習は、実習校での実習だけでなく、大学での授業(全 9 回)への参加が必要です。また、実習校での実習期間中は、「先生」としての自覚のある行動が求められます。実習が始まるまでに実習校での事前打合せや指導案を作成するといった大変な準備が必要です。「就職活動や部活動(試合含む)、公務員試験等」の自己都合により、教育実習(大学での授業参加含む)を「欠席する」「遅刻する」「早退する」といったことは一切認められません。教育実習の履修にあたっては、自身の進路計画を踏まえ十分な心構えて臨んでください。

Q5.教職課程科目の履修を途中で諦めた場合、どうなりますか？

A5.すでに修得した単位がなくなることはありませんので、卒業後などもう一度教職課程科目を履修したいと思ったときに不足科目を履修することになります。卒業後に希望する科目(教職課程科目など)を履修する「科目等履修制度」などを活用し(単位を修得し)、免許の取得を目指すことは可能です。

Q6.教育実習は必ず出身校になるのでしょうか？

A6.教育委員会による配当制の地域を除いて、教育実習は原則、出身校で行う場合がほとんどです。出身校が統廃合された場合は、統廃合後の学校へ受入依頼に行く、学校インターンシップ、ボランティアなどでつながりをつくり、そちらの学校へ受入依頼するなど実習先を自己開拓する必要があります。大学側が実習校を紹介することはありません。

その他「よくある質問」は、教職支援センターHPトップページから右上の「よくある質問」をクリックしご覧ください。

4. 教育実習までの流れ・諸手続き(予定)

ガイダンスを欠席したり、諸手続きを怠ったりした場合、教育実習や介護等体験に参加できなくなる場合がありますので、こまめにインフォメーションシステムのお知らせ及び教職支援センターホームページをチェックしてください。

なお、ガイダンスの内容や実施時期は、変更する場合がありますので同様に注意してください。

年次	時期	ガイダンス・諸手続き等
2 年次	6 月	「①教育実習事前指導登録ガイダンス」 ←このガイダンスです。
	7 月	「教育実習事前指導登録票」の提出 (提出締切:2023 年 7 月 28 日(金)17:00 まで)
	3 月	「教育実習事前指導」クラスの履修登録 「教育実習事前指導登録票」を提出した方のみ、履修登録画面に「教育実習事前指導」クラスをあらかじめ登録します(クラス指定)。 [注]この時点で、教職課程の履修をやめる方は、登録された「教育実習事前指導」クラスを各自、削除してください。同時に、「教職履修カルテ」の取得希望免許選択画面より、免許取得の「希望する」を「希望しない/取りやめ」に変更してください。
		「②教育実習受入依頼ガイダンス」 教育実習履修条件科目や、教育実習校への受入依頼手続きについて説明します。 教育実習履修条件科目の履修登録
3 年次	4~6 月	出身校訪問(教育実習受入依頼手続き) 内諾依頼を行います。(自己開拓)
	7 月	「教育実習登録票」「教育実習内諾書」の提出
	9 月(秋学期)	「教育実習事前指導」の受講(15 回)
	10 月	「③教育実習事前指導履修者対象ガイダンス」 教育実習体験者の報告+教育実習受入校指導教員からのお話
	3 月	「教育実習(一)・(二)」クラスの履修登録 「教育実習登録票」を提出した方で、教育実習の履修条件を充たした方については、履修登録画面に「教育実習(一)・(二)」クラスをあらかじめ登録します(クラス指定)。 [注]教育実習の履修条件を充たせなかった方は、教育実習校へ辞退手続きが必要となりますので、各キャンパスの教職担当窓口で申し出てください。 「④教育実習直前ガイダンス」 教育実習の履修が確定した方を対象に、ガイダンスを実施します。
4 年次	4 月	「教育実習直前指導」の受講(6 回) 「教育実習(二)」の授業です。
	5 月~	教育実習の実施 実習時期は、実習校により異なります。(秋学期に実習がある場合でも「教育実習(二)」は春学期配当の授業となります。)
	6~7 月	「教育実習事後指導」の受講(3 回) 「教育実習(二)」の授業です。

※ 教育実習の手続きに関する相談・書類の提出は、千里山キャンパス第2 学舎 1 号館 1 階教職支援センターおよび総合情報学部オフィス、ミューズオフィス、堺キャンパス事務室で受け付けています。

※ 教育実習の実施にあたっては、教育実習費¥1,000 の納入が必要です。納入時期については、別途お知らせします。

インフォメーションシステムの「個人伝言」をすぐ確認できるようプッシュ通知の設定をしましょう！

教職課程を履修している方は、介護等体験や教育実習の手続き等の連絡を個人伝言にて発信しますので、重要な連絡(個人伝言)を受け取るために関西大学公式アプリ「関大ポータル」をインストールの上、プッシュ通知が来るよう設定を行ってください。



教師に必要な4つ能力（教職履修カルテ「自己評価シート」より）

（大項目）			（中項目）	No	（小項目）	
教師に必要な4つの能力	①	学習指導力	1カリキュラム編成力	(1)	【教育課程の編成に関する基礎知識】	学習指導要領、教育課程の編成と評価に関する基礎的な知識や技術を習得しているか
				(2)	【道徳教育・特別活動・総合的な学習の時間等の指導力】	道徳教育、特別活動、総合的な学習の時間、特別支援教育等の指導法や内容に関する基礎理論・知識を習得し、実践できるか
			2授業実践力	(3)	【教材等の理解・活用に関する能力】	教材を分析し、教科書にある題材や単元等に応じた教材・資料・テストを作成することができるか
				(4)	【授業展開における生徒把握】	生徒の心理、学習意欲、クラスの状況を的確に把握し、反応を生かしながら授業を展開することができるか
				(5)	【授業を実践していく知識・技術】	板書や話し方等の表現技術や情報機器の活用等授業を行う上での基本的な知識や技術を習得しているか
	②	生徒指導力	1生徒理解・対応力	(6)	【心理・発達論的な生徒理解】	生徒理解のために必要な心理・発達論的基礎知識を習得しているか
				(7)	【生徒への共感的で公平な態度】	生徒の発達段階を考慮して、カウンセリングマインドを生かした公平な態度で生徒に接することができるか
				(8)	【生徒指導力】	問題行動等に対する指導や規範意識を育むなど適切な生徒指導ができる基礎理論・知識を習得しているか
			2学校・学年・学級運営力	(9)	【生徒集団の育成】	生徒会活動や部活動等、生徒集団の育成に必要な基礎理論・知識を習得しているか
				(10)	【望ましい学級運営】	学級における望ましい人間関係の育成に必要な基礎理論・知識を習得しているか
				(11)	【学校教育の現代的課題】	学校教育に関する新たな課題(いじめ、不登校、特別支援教育等)についての基本的な認識を持つことができるか
				(12)	【適切な進路指導】	生徒の状況に応じた適切な進路指導が実践できる基礎理論・知識を習得しているか
	③	マネジメント力	1キャリアマネジメント力	(13)	【教職の意義等の理解】	教職の意義や教員の役割・立場、職務内容、生徒に対する責務等を理解しているか
				(14)	【自己の課題認識と探究心】	自己の課題を認識し、その解決に向けて学び続ける態度を形成しているか
			2学校マネジメント力	(15)	【教育の理念・教育史・思想の理解】	教育の理念・教育史・思想についての基礎理論・知識を習得しているか
				(16)	【学校教育の社会的・制度的・経営的理解】	学校教育の社会的機能や法制度、学校経営等の側面について基本的に理解しているか
	④	コミュニケーション力	1社会人基礎力	(17)	【役割遂行能力】	集団において、率先して自らの役割を見つけたり、与えられた役割を責任をもって遂行できるか
				(18)	【社会人としての基礎・基本】	相手の立場や状況に応じた挨拶、言葉づかい、服装、接し方等、社会人としての基礎・基本が身についているか
			2教職員連携力	(19)	【他者との連携・協力】	他の教職員と連携・協力しながら、課題に取り組むことができるか
			3保護者・地域等連携力	(20)	【保護者・地域等との連携・協力】	保護者や地域、関係機関等との連携・協力の必要性を理解し、課題に取り組むことができるか

※ 文学部初等教育学専修所属の学生には、教職履修カルテ(初等)「自己評価シート」を別に設けています。